

～八峰町まち・ひと・しごと創生総合戦略を振り返って～

| 4つの基本的方向 | |
|-----------------|--|
| I 仕事づくりのための産業振興 | |
| II 移住・定住対策 | |
| III 少子化対策 | |
| IV 人口減少社会への対応 | |

| 基本的方向 | 具体的な施策 | 基本的方向 | 具体的な施策 |
|-----------|-------------------|---------------|----------------------|
| III 少子化対策 | (1) 結婚支援体制強化事業 | IV 人口減少社会への対応 | (1) 能代山本定住自立圏構想事業 |
| | (2) 出会いの場創出事業 | | (2) 交通空白地・交通弱者対策事業 |
| | (3) 子育て世帯負担軽減事業 | | (3) 自治会育成支援事業 |
| | (4) 子育て支援センター整備事業 | | (4) まちづくり活動支援事業 |
| | (5) ICT教育環境整備事業 | | (5) 元気な高齢者による地域づくり事業 |
| | (6) ふるさと教育推進事業 | | |
| | (7) 英語教育推進事業 | | |
| | (8) 外部学習支援員活用事業 | | |

八峰町の地方創生へ向けて

平成27年11月30日、町は「八峰町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。同戦略は、人口減少を抑制し、将来にわたって活力ある町の創生を町民と行政が一体となって取り組むことを目的に策定されました。

総合戦略には、4つの基本的方向と、それぞれの具体的な施策を策定しており、その成果を検証することとなっています。

ここでは、7月に開催した町民や関係機関などで構成される検証委員会で議論された、これまでの主な取り組みと今後の取り組みなどを紹介します。

IV 人口減少社会への対応

(1) 能代山本定住自立圏構想事業

事業内容
生活に必要な都市機能について一定の集積がある「能代市」と、住民生活等において能代市と密接な関係を有する八峰町、三種町、藤里町の3町が、定住の受け皿として「定住自立圏」を形成し、互いに連携・協力することにより住民の生活に必要な機能を確保し、圏域全体の活性化を図ると共に、人口の定住を促進する。

これまでの取り組み
H28年12月25日付けで、1市3町で定住自立圏形成協定を締結。この協定締結を受け、圏域の将来像や、協定に基づき推進する取組などを記載した能代山本定住自立圏共生ビジョンを策定した。

今後の取り組み
他圏域の取り組みも参考にしつつ、共生ビジョンに位置づけられている連携事業について検討していく。

III 少子化対策

(2) 出会いの場創出事業

事業内容
独身男女の出会いの場が少ないことが、晩婚化・未婚化の要因の1つとなっていることから、周辺市町村や関係団体、結婚サポーター等と連携し、出会いのきっかけとなる「お見合い」や各種イベント等の実施を促進する。

これまでの取り組み
● 出会いの場創出イベント開催（株式会社秋田アルス主催）

今後の取り組み
● 「独身者大歓迎のなべっこ遠足」を開催する。
● 圏域での成婚を促すため、男女の出会いの場の創出等に取り組む。

(2) 交通空白地・交通弱者対策事業

事業内容
旅客運送サービスの実施する事業者等と連携し、町内における地域住民の日常生活に必要な交通手段の確保を図る。

これまでの取り組み
● バス乗車券類購入支援事業
日常的または定期的な路線バスを利用し、これを主な交通手段とする町民が乗車券類を購入する場合に、費用の一部を補助する。
● 公共交通空白地有償運送事業
公共交通（バス・電車等）が提供されていない、大信田・埴・仲村・横内地区の住民の方などを対象に、社協で所有する自家用車を使用し、有償輸送を行う。
● タクシー運行事業
町民の生活に必要な交通の維持及び確保を図る。

今後の取り組み
● バス乗車券類購入支援事業を継続して実施する。
● 公共交通空白地有償運送を行う社協に対し、補助金を交付する。
● タクシーの運行を行うタクシー事業者に対し、補助金を交付する。

(4) 子育て支援センター整備事業

事業内容
長年にわたって蓄積された子育てに関する知識や経験を持つ子ども園が子育てでネットワークの中心になり、子育てに対して不安や疑問をもつ家庭を援助するための体制を整備する。

これまでの取り組み
● 「認定子ども園」への移行に向けた研修に職員が参加

今後の取り組み
● H28年度中に「子ども子育て支援センター」を設置する。
● H29年度中に認定子ども園を設置する。

(5) ICT教育環境整備事業

事業内容
就業機会の提供や社会参加に対する支援など、元気な高齢者が地域内で活躍できる支援体制を構築し、健康で生きがいをもって生活できる環境を整備する。また、高齢者が地域の担い手となり、地域の問題解決に取り組んでいくような「高齢者自立型」の地域づくりに向けた取り組みを推進する。

これまでの取り組み
● 木肌のぬくもり社が「木育」と「高齢者の生きがいづくり」をリンクさせた取り組みを実施。
● 木工品を製作する過程で、高齢者に紙やすりがけなどの軽作業を実施してもらい、完成した木工品を子ども園に寄付するというもの。

今後の取り組み
● 地域社会の担い手として、豊かな経験と知識・技能を活かしたボランティア活動や健康増進などに積極的に取り組んでいる老人クラブの運営を引き続き支援する。
● 高齢者の生きがいづくりに取り組む団体を支援する。（八峰町まちづくり活動支援事業等）

(5) ICT教育環境整備事業

事業内容
学力の基礎が培われる就学前園児から中学生まで、ICT機器を取り入れた保育や教育を実践していくことで、高度情報化、グローバル社会を生き抜く力を養成する。

これまでの取り組み
● 文部科学省（H27～H28）の委託を受け、小学校4～6年理科及び中学校1～3年英語教科について、ICTを活用したモデルカリキュラムを作成。

今後の取り組み
● 地域未来塾に係る学習支援を促進するため、中学校にタブレットPCを導入する（H28）。
● 幼児教育の充実や幼小連携を実践するため、子ども園に大型電子黒板を導入する（H28）。